

## いろいろな技がいっぱい

校長 武井 正明

5時間目、2年5組土田先生の理科の時間。

「ものづくりが栄えた理由と化学変化」…これは面白そうだ。

2年生も随分大人っぽくなった。吉中の立派な中堅だ。理科室がアカデミックな、落ち着いた雰囲気になっている。



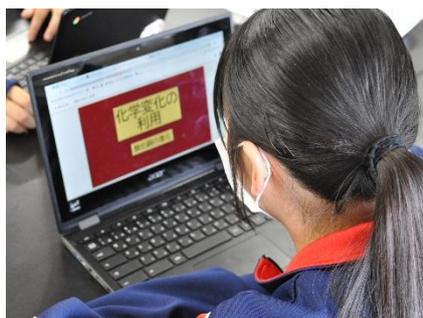
土田先生からは「最初の実験に向けての動機付け、ここが見どころです」とお聞きしていた。

今回は、限られた時間しか参観できなかったのですが、そこに絞って参観させていただいた。

まず、登場したのは燕の鎚起銅器だ。そうそう「家族に乾杯」にも出てきた、あの80万以上する代物だ。

土田先生と生徒達のキャッチボールで授業は進む。「なぜ燕が銅で栄えたのでしょうか？」

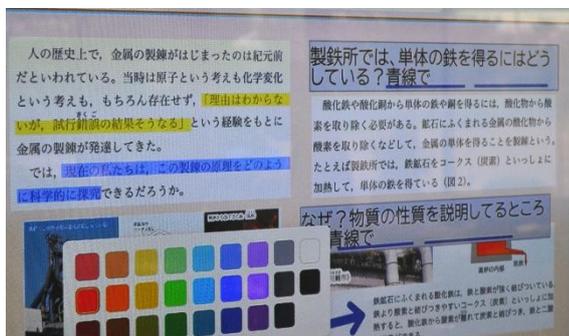
「佐渡は金山だったな…」反応がパーンと返ってくる。そのやりとりが心地よく響く。やっぱり言葉の直接のコミュニケーション、これがとても大事。



そして、銅が弥彦山でかつて採掘されていたという史実を知る。そうか、燕市の鎚起銅器のルーツは、実は弥彦山にあったのか。

その後、オクリンクを使って、土田先生から次々と課題が皆に送り込まれてくる。

その多くは、燕市で力を入れて取り組んでいる、読解力育成に絡めた「RS 課題」を踏まえたものだ。



やっぱり教科書の言葉や文章

をしっかり理解する力を、日々の授業で丁寧に積み上げていかないと学力はついてこない。

僅かな時間だったが、様々な角度からのアプローチの工夫に感心した。

「不易と流行」という言葉がある。昔からずっと受け継がれてきたものと時代のトレンド、これがバランスよく配合されることで、より素晴らしいものが生みだされる。

授業も同じ。言葉で、ICTで、皆の知的好奇心を刺激する。

今日の理科授業には、土田先生のいろいろな技が随所で光っていた。

